

令和元年度 西の里小学校 全国学力・学習状況調査 の結果分析

保護者・地域の皆様におかれましては、日ごろから本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、本年4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果をまとめましたので、その概要をお知らせいたします。本校では、この調査結果を踏まえ、児童の学力向上に向けた改善プランを作成し、学校の教育計画や日常の授業改善に取り組みます。

※下記の「やや高い」やグラフ内の表記(ほぼ同様)等 ↓ は、道教委の分類方法に基づいた表現です。

国語 全国の平均正答率と比較して「やや高い」結果でした

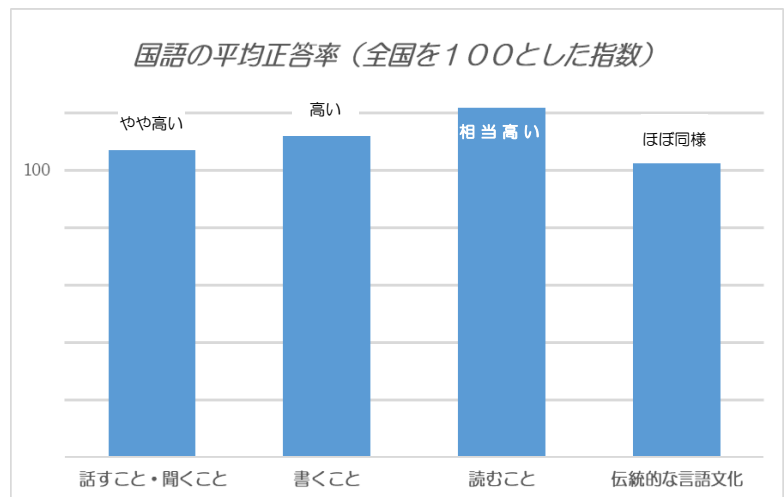
①領域別の結果

読むこと

「読むこと」領域では、全国平均正答率を大きく上回り、“目的に応じて文章の内容を的確に押さえる力”や“本や文章全体を概観して効果的に読む力”が身についてきたことが分かります。

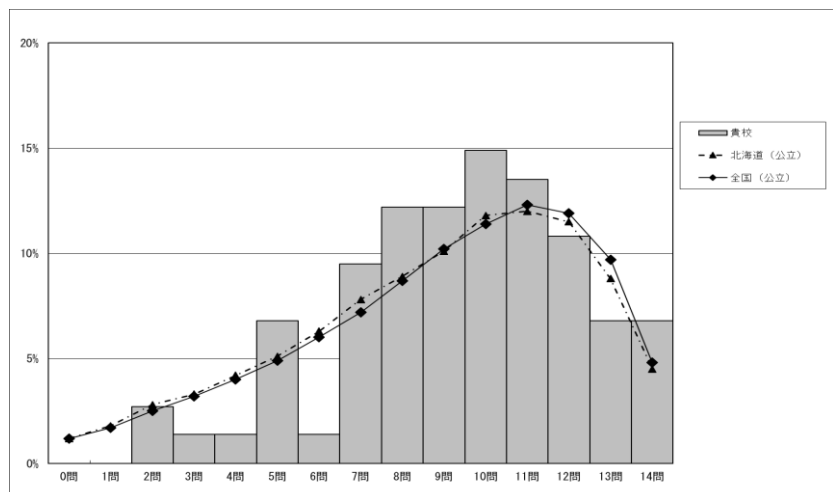
伝統的な言語文化に関する事項

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域は、全国平均正答率とほぼ同様であるものの、他の領域と比べて平均正答率が高くないため、漢字を文の中で正しく使う指導を継続する必要があります。



②正答数の分布

全14問のうち正答数が6問以下の児童の割合は、全国・全道と比べて低く、高い正答率に集中していることが分かります。しかし、12・13問の正答数がやや低いことから、上位層の引き上げが今後の課題であるといえます。



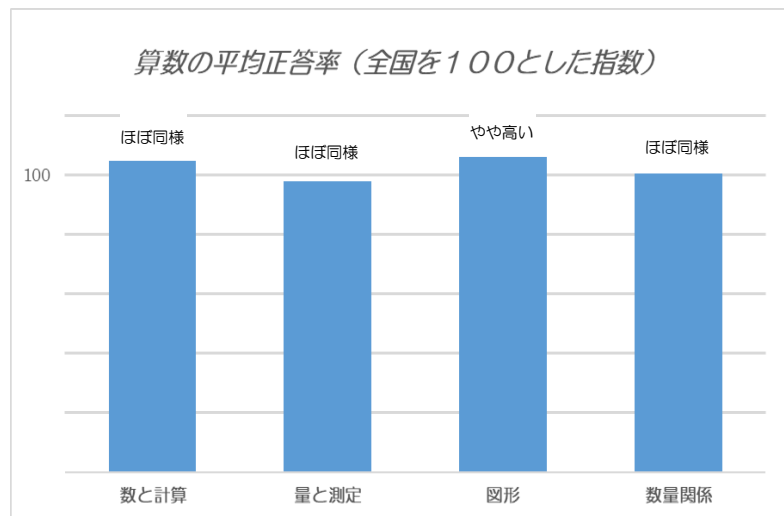
裏面あります→

算数 全国の平均正答率と比較して「ほぼ同様」の結果でした

①領域別の結果

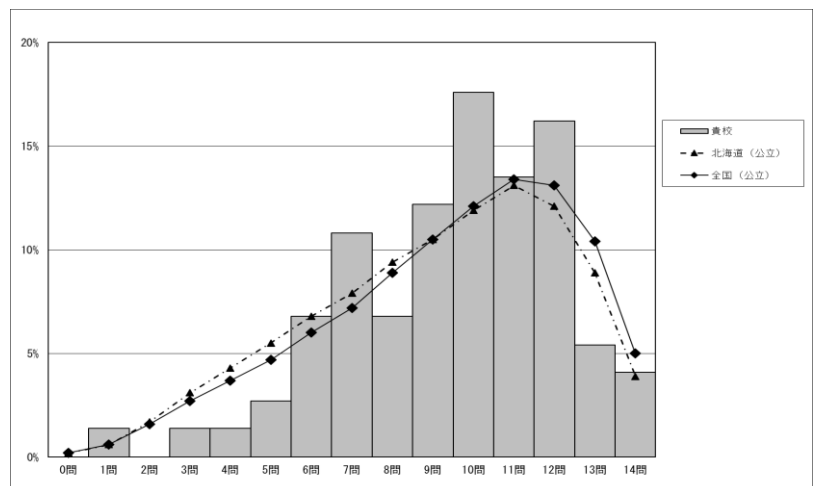
量と測定

「量と測定」の対象問題は3問ありましたが、二つの問題で全国正答率を下回りました。とくに“図形の面積の求め方を解釈し、説明を記述する”問題や“資料の情報を関連付けて、単位量当たりの数の増減理由を記述する”問題に課題が見られました。いずれも、説明・理由の記述を苦手とする傾向がありますので、自分の考えを話す機会を増やししながら、その内容を文章で表現する学習に力を入れる必要があります。



②正答数の分布

国語と同様、正答数が6問以下の児童の割合は、全国・全道と比べて低い傾向にあります。しかし、13・14問の正答児童数が低いことから、「量と測定」に加え「数量関係」で誤答の多かった“加法と乗法の混合した整数と小数の計算”や“除法式の理解”に力を入れて指導を継続する必要があります。



☆西の里小学校・学力向上の取組☆

◆小中9年間の発達や学びを支える教育の充実を目指して～小中一貫と地域とともにある学校づくり～

①日常の授業の充実・改善（各教科）

- ・「わかる・はなす・みにつく」授業を展開し、【振り返りの時間】や【練習問題に取り組む時間】を取り入れる。
- ・学習の「課題とまとめ」を明確にする。
- ・学習内容の習熟に応じて、宿題や家庭学習の取組をすすめる。

②研究授業の実施による授業改善の推進

③T.T指導、習熟度別指導の充実

- ・児童の実態に応じた丁寧な指導（T.Tによる指導、小グループに分かれた丁寧な指導）

④ICT活用の充実

- ・書画カメラ、タブレット、デジタル教材、電子黒板他の活用